大長崎都市圏総合開発地域

土地分類基本調査

大　村

5万分の1

国土調査

長　崎　県

1973

序　　文

本県は，九州の北西部に位置し，未だ汚されていない美しい自然と，歴史と伝統によって個性的に形成されてきた豊かな人文的資産があります。

エネルギー問題を軸としてゆれ動く国際情勢のもとで，これまでの高度経済成長に伴う過密公害等をはじめとする諸々の歪みが厳しく問われ，わが国経済社会の将来像の大きな転換が要求されている今日でありますが，本県は，恵まれた環境を保全しつつ，その特性を生かし活用することによって，将来の新しい社会に対応し，均衡ある県勢発展を目指し得る豊かな可能性を有していると確信いたしております。この可能性のうえに立って，本県では，現在，生活圏を基盤にすべての県民が都市的利便を享受し，豊かな環境のもとで快適な生活を営み得るよう中核都市を中心に，各地域の特性に応じて，都市機能の分化・産業の適正配置をすすめて一体化を図る「都市圏構想」の検討を進めているところであります。

本調査は，この都市圏構想の具体化に必要な諸調査のうち，最も基礎的なものとして，「地形」「表層地質」「土じょう」を主要素とする土地条件を科学的・総合的に調査することを目的として，国土調査法に基づく開発地域土地分類基本調査として，経済企画庁の国土調査費補助金を得て実施することになったのであります。

昭和４８年度は，その初年度として「肥前小浜」「長崎」「大村」の三図幅を調査いたしましたが，昭和４９年度以降も逐次地域ごとに実施していく計画であります。

この調査の成果を行政に利用されることは勿論，広く関係者に活用されることを希望いたします。

最後に，この調査の実施に当り，温いご指導・ご助言を賜わった経済企画庁国土調査課の方々，炎天の中で調査にたずさわった調査機関の方々，資料収集，調査等に積極的にご協力いただいた関係市町村をはじめ関係者各位に対しまして心から謝意を表する次第であります。

昭和４９年３月

長崎県企画部長

ま　え　が　き

1．本調査は，長崎県開発地域土地分類基本調査作業規程に基づき，長崎県企画部（企画課）農林部（総合農林試験場）・長崎大学教育学部の諸機関により実施したもので，調査の事業主体は長崎県である。

2．本調査の成果は，国土調査法施行令第２条第１項４号の２の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。

3．調査基図は，測量法第２７条第２項の規定により建設大臣が刊行した５万分の１地形図を使用した。

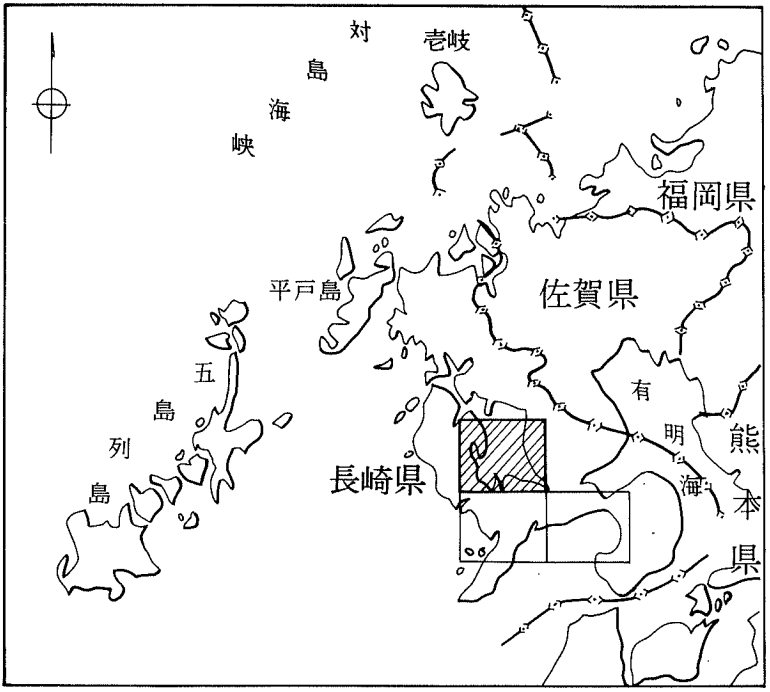
4．調査の実施・成果作成の関係機関及び関係担当者は次のとおりである。

指　導	経済企画庁総合開発局国土調査課		
総　括	長崎県企画部企画課	課　長	木戸忠之
		土地対策室長	松本重寿
		企画調査員	中島昌訓
		主　査	田浦仁也
		主　事	永石征彦
		主　事	上原　晃
		主　事	南里雅彦
地形調査 開発関連調査 （傾斜区分，水系・谷密度，開発規制）	長崎大学教育学部	教　授	石井泰義
表層地質調査 開発関連調査 （防　災）	長崎大学教育学部	教　授	鎌田泰彦

土壌調査	長崎県総合農林試験場	科長	小野末太
		技師	松尾俊彦

協力機関　長崎県関係各課および関係出先機関ならびに図幅内関係市町村

位置図



目　　次

序　文

まえがき

総　論

I.　位置および行政区画…… 1

1.　位　　置

2.　行政区画

II.　地域の特性…… 2

1.　自然条件

2.　社会経済条件

III.　主要産業の概要…… 8

IV.　開発の現状と方向…… 10

各　論

I.　地形分類図…… 11

II.　表層地質図…… 15

III.　土壌図…… 20

IV.　開発関連図…… 25

総　　論

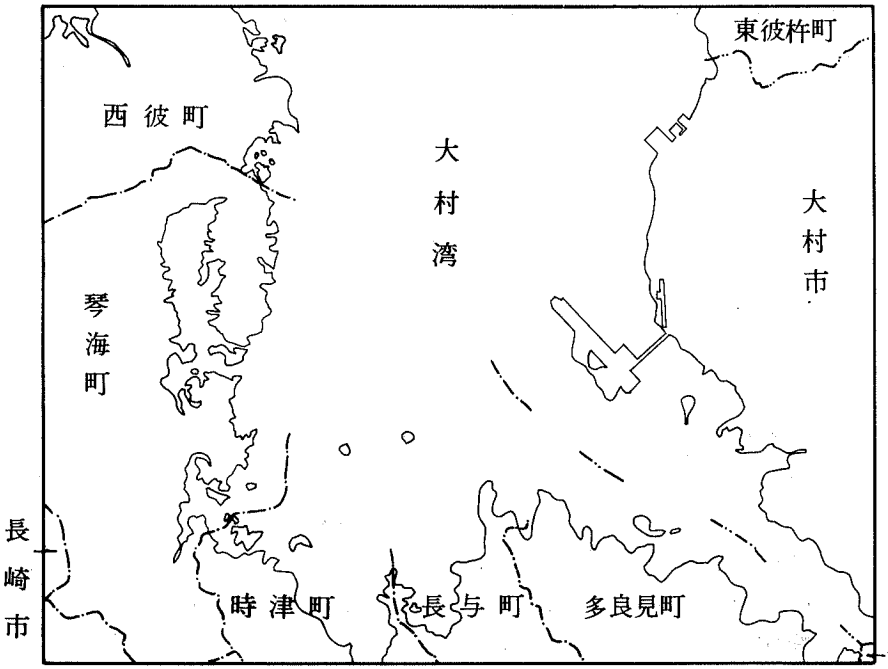
I　位置および行政区画

1. 位置：「大村」図葉は，長崎県本土部のほぼ中央部に位置し，経緯度は東経129°45′～130°00′，北緯32°50′～33°00′の範囲である。図葉内の面積は432.22Km²，そのうち陸地面積は217.09Km²である。

2. 行政区画：本図葉の行政区画は，長崎市，諫早市，大村市，西彼杵郡多良見町，長与町時津町，琴海町，西彼町，東彼杵郡東彼杵町の3市6町からなっている。

なお，諫早市は，図葉内に含まれる面積が狭小であるので，特記事項以外は以下の記述でふれない。

行政区画



第1表　図葉内の市町村別面積

区分 / 市町村名	図葉内面積 実数A（Km²）	図葉内面積 構成（%）	市町村面積 B（Km²）	A/B（%）
長崎市	4.82	2.2	208.18	2.3
諫早市	0.03	0.0	146.79	0.0
大村市	70.69	32.6	123.99	57.0
西彼杵郡多良見町	21.70	10.0	37.60	57.7
長与町	9.53	4.4	28.46	33.5
時津町	9.92	4.6	20.82	47.6
琴海町	62.39	28.7	68.31	91.3
西彼町	30.13	13.9	69.45	43.4
東彼杵郡東彼杵町	7.88	3.6	74.17	10.6
計	217.09	100.0	777.77	27.9

資料：建設省国土地理院調べ（47.10.1現在）　但し，図葉内面積については，県企画課調べ。

Ⅱ　地域の特性

1．自然条件

ア．気象条件

この地域の全面に大村湾が広がって，その形状・水深からみて一般的に海況に及ぼす気象の影響は非常に大きいが，河川による淡水の影響が比較的に少ないので，地形的に懸念される程の強い内湾性の海域ではない。

また，西彼杵半島を距て黒潮の支流である対馬暖流が北上しているので，この地域は海洋性の気候の影響を受け，年平均気温16～17℃，1月の平均気温は6℃以上または年間降水量2,000㎜を超えるところが多いといった九州型気候区のうち，西海型気候区に属する。

なお，湾内の水の動きは，潮汐流は極めて弱いが，伊の浦瀬戸を経て西海沿岸沿いに

流入する外海系の動きと湾奥から東彼沿岸ぞいに北上しながら発達する内湾水系とがある。この北上した内湾水の一部は，川棚町大崎鼻附近で滞留した湾内余剰水とともに，落潮時湾外に流出する。また湾の中央部には左回りの環流域があって，いわゆる大村湾固有水地帯を形成している。

第2表　月間平均最高気温

1℃

観測所＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
長崎	12.7	10.7	14.4	18.5	22.1	25.4	30.2	30.3	26.8	22.3	17.2	12.5	20.3
亀岳	12.1	10.4	14.8	18.6	22.6	26.0	30.0	30.3	26.8	22.4	17.2	12.7	20.3
西諫早	12.1	10.2	14.7	19.3	23.1	26.6	30.3	30.9	27.0	22.5	17.1	12.5	20.5
萱瀬	12.0	10.1	14.5	18.5	22.8	26.1	30.5	30.6	26.7	22.1	16.9	12.2	20.3

注　昭和47年1月～12月

第3表　月間平均最低気温

1℃

観測所＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
長崎	5.8	5.1	6.9	11.1	15.0	18.6	24.4	23.9	19.9	14.7	10.3	5.7	13.5
亀岳	5.0	4.4	6.7	10.6	14.6	18.4	23.9	23.3	19.5	14.5	9.8	5.4	13.0
西諫早	1.8	2.6	3.6	8.3	12.9	16.9	23.3	22.0	17.2	10.9	6.9	1.6	10.7
萱瀬	3.8	3.4	5.0	9.6	13.7	17.4	23.4	22.3	18.1	12.3	8.7	4.1	11.8

注　昭和47年1月～12月

第4表　月間降水量

1㎜

観測所＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
長崎	246	131	120	227	165	556	346	226	216	146	131	53	2,563
亀岳	202	126	158	239	165	505	325	227	198	95	126	70	2,436
西諫早	254	129	198	287	228	553	673	201	221	163	173	82	3,162
萱瀬	221	121	156	233	231	559	450	259	143	108	139	94	2,714

注　昭和47年1月～12月　（資料）　長崎県気象月報（長崎海洋気象台）

第5表　観測所の位置

観測所名	所在地	東緯	北緯	海抜	摘要
長崎	長崎市南山手町5	129°52′2	32°43′9	27m	図葉外南側
亀岳	西彼杵郡西彼町亀岳小学校	129°48′0	32°58′4	80	図葉内西側
西諫早	諫早市貝津町長崎統計事務所	130°50′5	32°50′0	10	図葉外東側
萱瀬	大村市宮代	129°59′5	32°56′9	75	図葉内東側

イ．土地利用の現況

関係市町村の平均耕地率は20.2%であり，県平均耕地率は17.6%に比し高いが，これは大村市平担部の水田地帯及び大村湾沿いにみかん樹園地が多いためである。しかし，急傾斜地の耕地が多く，また本地域は，長崎市・大村市の一部を含むとともに諫早市に隣接しているため，都市化の影響を強く受け，農業労働力の減少・兼業化と耕地の改変が進行している。

現在，生産基盤の整備・農村環境の改善を図りながら都市近郊の市場条件の優位性を生かした果樹・野菜・花卉花木・畜産などの生産地帯としての役割強化が推移されている。

林業については，平均森林率が52.8%であり，西彼半島・多良山系を主体としたヒノキ・スギの造林地の保有並びに拡大造林の推進が図られている。また，水源涵養林や保健休養の場としての公益的森林機能は高く，県民の森・野岳湖周辺の大規模レクリエーションの場として多目的な活用が図られつつある。

工業用地については，交通網の要衝である大村市・時津町への新規立地が進んでおり住宅用地についても，長崎市から分散して，周辺市町村である時津町・長与町・琴海町へとスプロール的拡大が進行している。また，箕島に建設中である新大村空港をはじめ九州横断自動車道，長崎新幹線などの大型公共事業が推進中であり，この地域は今後急速に著しい土地利用の変化がみられることとなろう。

第6表　土地利用の現況　（単位：ha・%）

市町村	総土地面積(A)	耕地面積（B）				耕地率	森林面積	森林率
		田	畑	樹園地	計	(B)／(A)	（C）	(C)／(A)
長崎市	20,818	650	1,030	1,212	2,892	13.8	13,056	62.7
諫早市	14,679	2,207	1,124	539	3,870	26.4	6,498	44.3
大村市	12,399	1,253	719	670	2,642	21.3	5,932	47.8
多良見町	3,760	207	52	707	966	25.6	1,953	51.9
長与町	2,846	193	28	565	786	27.6	1,249	43.8
時津町	2,082	200	53	297	550	26.4	860	41.3
琴海町	6,831	404	176	590	1,170	17.1	3,744	54.8
西彼町	6,945	582	365	630	1,577	22.7	3,625	52.1
東彼杵町	7,417	675	210	369	1,254	16.9	4,121	55.5
計	77,777	6,371	3,757	5,579	15,707	20.2	41,038	52.8
比率	(100.0)	(8.2)	(4.8)	(7.2)	(20.2)	—	(52.8)	—

資料：長崎県統計年鑑，長崎県の林業

2．社会経済条件

ア．交通

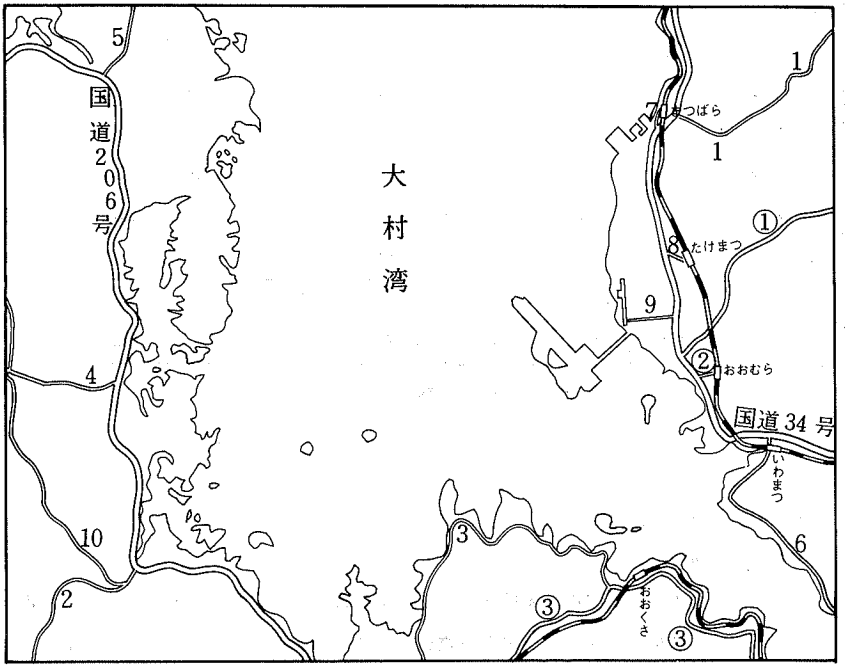
本図葉地域は，国道３４号・２０６号を主軸として主要地方道・一般県道が走っているが，広域化・高速化並びに大量輸送時代に対応するため，九州横断自動車道・西九州自動車道の構想実現が期待されている。現在，九州横断自動車道の建設については，昭和５１年大村・長崎間供用開始を目途に事業推進が図られており，全線完成後には，長崎・大分間が約４時間に短縮される。

鉄道については，国鉄長崎本線長与経由および大村線が走っており，長崎本線は，昭和５０年３月完成予定の電化によりスピードアップと貨物の輸送力増強が可能となる。また，長崎新幹線が昭和５４年開通を目途に作業が進められている。

空路については，現在，滑走路1,２００ｍの大村空港から東京・大阪・鹿児島・福江へＹＳ１１型機が運航しているが，ジェット機時代に対応するため大村市箕島に滑走路

2,500mの日本最初の海上空港を建設中で昭和49年12月に完成する予定である。さらに，将来滑走路を3,000mに延長できるよう県において用地の先行造成をすすめている。

道路 鉄道　位置図



1. 道　路

国　道

路線名	起点	終点	主要な経過地
３４号線	鳥栖市	長崎市	佐賀市・武雄市・大村市・諫早市
２０６号線	長崎市	佐世保市	時津町　西彼町

主要地方道

大村鹿島線（①）　諫早時津線（②）　大村停車場線（③）

一般県道

嬉野大村線　(1)　三重港村松線　(2)　大草長崎線　(3)

神ノ浦港長浦線　(4)　上岳宮ノ浦線　(5)　貝津大村線　(6)

松原停車場線　(7)　竹松停車場線　(8)　大村空港線　(9)

奥ノ平時津線　(10)

2. 鉄　道

路線名	起点	終点	主要な経過地
長崎本線	鳥　栖	長　崎	佐賀・肥前山口・肥前鹿島・諫早
大 村 線	早　岐	諫　早	大村

3. 空　路

大村空港

東京　大村間　　大阪　大村間　　大村　鹿児島間　　大村　福江間

イ. 人　口

図葉内関係市町村の人口は，昭和４５年５４５,８１１人であり，人口密度は,1 Km² 当り平均８６５.０人と全県平均３８３.４人に比し，県内でも人口密度の高い地域に属する。人口推移をみると昭和３５年から４５年までの１０年間では7.２％の増加を示し，昭和４０年から４５年までの５年間では3.５％と増加を示しているが，これは長崎市及びベッドタウン化している時津町・長与町の著しい増加によるものである。大村市・多良見町では，交通基盤の整備・企業の立地等により人口減少から人口増加へ転じ始めている。また，琴海町西彼町については地形的条件が悪く，産業・交通網も脆弱であったため過疎化が進行してきたが，国道２０６号線の整備に伴い，長崎・佐世保の二大都市を結ぶ短絡路の優位性が生かされ，今後，都市化の影響を受け人口増加の傾向へ進むことが予想される。

第7表　関係市町村の人口推移

市町村名＼年次	35年	40年	45年	45／35	45／40	人口密度（45年）
長崎市	387,147	410,925	425,996	110.0	103.7	2,028.4
大村市	59,752	56,425	56,538	94.6	100.2	456.0
多良見町	9,324	8,846	8,886	95.3	100.5	236.3
長与町	11,500	12,078	14,008	121.8	116.0	492.2
時津町	8,768	9,287	12,493	142.4	134.5	602.9
琴海町	8,400	7,779	7,347	87.5	94.9	107.7
西彼町	11,395	10,512	9,830	86.3	93.5	141.5
東彼杵町	12,553	11,413	10,713	85.3	93.9	144.4
計	508,839	527,265	545,811	107.2	103.5	865.0

資料：国勢調査

Ⅲ　主要産業の概要

本図葉内の関係市町村の就業人口は，昭和45年238,920人で昭和40年217,318人に比し，9.9％の増加を示している。第9表の産業別就業人口の構成をみると，第1次産業14.5％，第2次産業27.4％，第3次産業58.1％となっており，県平均の第1次産業28.7％，第2次産業22.8％，第3次産業48.5％に比し，第2次産業・第3次産業のウエィトが高い。しかし，これは長崎市の就業構造の影響によるもので，長崎市を除く関係市町村の産業別就業人口の構成比は，第1次産業35.4％，第2次産業21.3％，第3次産業43.3％となり，第1次産業，なかでも農業就業者のウエィトが高い。

第8表　産業別就業人口の構成（45年）

産業別 / 市町村名	総数	第一次産業				第二次産業				第三次産業
		計	農業	林業狩猟業	漁業	計	鉱業	建設業	製造業	
長崎市	182,141	14,594	8,781	68	5,745	53,372	191	15,032	38,149	114,175
大村市	26,261	6,546	5,964	49	533	4,856	58	2,047	2,751	14,859
多良見町	4,464	1,989	1,932	16	41	1,044	1	315	728	1,431
長与町	6,174	1,680	1,620	1	59	1,917	6	490	1,421	2,577
時津町	5,723	1,205	1,111	3	91	2,136	14	747	1,375	2,382
琴海町	3,837	2,516	2,308	3	205	583	66	265	252	738
西彼町	5,003	3,441	3,026	12	403	553	34	333	186	1,009
東彼杵町	5,317	2,739	2,635	7	97	1,012	10	264	738	1,566
計	238,920	34,710	27,377	159	7,174	65,473	380	19,493	45,600	138,737
比率	(100.0)	(14.5)	(11.4)	(0.1)	(3.0)	(27.4)	(0.1)	(8.2)	(19.1)	(58.1)
県全体に占める割合	34.3	17.4	17.6	13.6	16.7	41.3	2.9	38.1	48.2	41.2

資料：国勢調査

第9表　主要産業の状況

単位：百万円

	農業			漁業		製造業			商業	
	農家数	うち専業	農業粗生産額	経営体数	総漁獲高	事業所	従業員	製造品出荷額等	商店数	年間販売額
長崎市	6,249	1,252	3,822	831	25,956	1,099	32,875	203,675	7,295	402,590
大村市	3,297	748	3,747	270	237	157	2,632	9,570	843	17,108
多良見町	1,040	245	1,119	79	26	9	666	4,127	101	3,443
長与町	866	182	891	34	11	13	241	471	134	2,007
時津町	726	121	557	56	14	57	2,153	11,633	181	2,785
琴海町	1,105	208	1,025	232	45	15	87	189	80	645
西彼町	1,539	275	1,368	235	99	26	88	148	143	875
東彼杵町	1,471	258	1,293	59	63	27	377	1,468	153	1,365
計	16,293	3,289	13,822	1,796	26,451	1,403	39,119	231,281	8,930	430,818
県全体に占める割合	17.2	17.4	20.1	9.9	40.4	26.1	44.3	60.1	33.6	56.1

資料：長崎県勢要覧（48年版）

Ⅲ 開発の現状と方向

この地域は，約３３０Km² の広さを持つ波静かな大村湾に面し，海と緑の美しい自然景観に恵まれた気候温和な地域である。大村湾では，貝・エビ・真珠等の浅海養殖が営まれているが近年赤潮の被害が発生しているので，大村湾の水質保全の為の対策が進められている。又，長崎地域の水不足に対処するため，大村湾の一部である形上湾の淡水湖計画の調査が実施されている。

大村湾の東側に位置する大村市は，良質米の産地をベースに沿海部の野菜・花卉花木，中腹部のみかん及び酪農の産地形成，東彼杵町の高部畑地には茶の産地形成がすすめられている。又，多良見・長与・時津・琴海・西彼の各町は，この地域の気候を生かしてみかんを主軸とした農業が推進されている。

なお，琴海町・西彼町が位置する西彼杵半島は，山地が多い複雑な地形の上，かっては陸の孤島といわれた地域で，零細な農漁業よりなりたっていたが，昭和３０年西海橋の建設に伴う交通基盤の整備により，県下の二大拠点である長崎市と佐世保市間の最短絡線として脚光を浴び以後都市化の影響を強くうけた農業開発，観光レクリエーション開発が進みつつある。

さらに時津・長与・多良見の各町は，長崎市からの人口・産業の分散が進みつつあり，大村市・東彼杵町は，九州横断自動車道・長崎新幹線などの大型プロジエクトの導入をはじめ，昭和４９年１２月開港を目ざして新大村空港の建設が推進中であり，高速交通体系の整備が図られることにより，この地域の開発ポテンシャルは著しく増大している。

このような状況に立つて，現在長崎市・諫早市・大村市を一帯として含めた大長崎都市圏形成を軸とした総合的地域開発の検討が進められている。

（長崎県企画課）

各　　論

Ⅰ. 地形分類図

1. 地形の概要

本図幅中には，大村湾東岸の安山岩からなる多良岳火山地の西部ならびに東南岸の玄武岩からなる日岳火山地，さらに南岸の琴ノ尾山・鳴鼓岳火山地および西岸の結晶片岩からなる西彼杵半島の山地が収録されている。

多良岳火山地の中央部を刻んで大村湾にそそぐ郡川は大村扇状地や萱瀬川谷底平野・沖田三角州などの低地を形成し，大村湾南岸火山地は急傾斜の山腹が直接海に迫り，海岸はリアス海岸で，伊木力・長与・時津などの湾入がみられる。西岸の西彼杵山地の山麓部も沈水し，形上湾・村松湾などの湾入があり，複雑な海岸線を示し，半島部は丘陵性地形を呈する。彼杵山地の大半は，中起伏量の山地で山頂部には隆起準平原が残存している。

地形の性状およびその分布を細説するため次の地形区を設定した。

Ⅰ. 山地・山麓

Ⅰa　多良岳火山地

Ⅰa′　同上山麓地

Ⅰa－1　飯盛岳中起伏火山地　　Ⅰa－2　米ノ山小起伏火山地

Ⅰa－3　琴平岳中起伏火山地　　Ⅰa－4　荒平小起伏火山地

Ⅰb　日岳火山地

Ⅰb－1　日岳中起伏火山地　　Ⅰb－2　日岳周辺小起伏火山地

Ⅰc　大村湾南岸火山地

Ⅰc′　同上山麓地

Ⅰc－1　琴ノ尾中起伏火山地　　Ⅰc－2　琴ノ尾周辺小起伏火山地

Ⅰc－3　鳴鼓岳中起伏火山地　　Ⅰc－4　鳴鼓岳小起伏火山地

Ⅰd　西彼杵山地

Ⅰd′　同上山麓地

Ⅰd－1　西彼杵中起伏山地　　Ⅰd－2　西彼杵小起伏山地

Ⅱ．丘陵地

Ⅱa　峯岳丘陵地

Ⅱb　尾戸・戸根丘陵地

Ⅲ．低　地

Ⅲa　大村平野

Ⅲa－1　萱瀬川谷底平野

Ⅲa－2　沖田三角州

Ⅲa－3　大村扇状地

Ⅲa－4　大上戸川谷底平野

Ⅲa－5　内田川三角州

Ⅲb　鈴田川低地

Ⅲc　大村湾南岸低地

Ⅲc－1　伊木力川谷底平野

Ⅲc－2　長与川谷底平野

Ⅲc－3　日並川谷底平野

Ⅲc－4　子々川谷底平野

Ⅲd　西彼杵低地

Ⅲd－1　西海川谷底平野

Ⅲd－2　戸根川谷底平野

Ⅲd－3　手崎川谷底平野

Ⅲd－4　大江川谷底平野

Ⅲd－5　大明寺川谷底平野

2．地形細説

2－1　山地・山麓（Ⅰ）

2－1－1　多良岳火山地（Ⅰa）

図幅の東北部にある武留路山（357m）・飯盛岳（340m）・鉢巻山（335m）付近は中起伏量の山地（Ⅰa－1）をなし，周辺の小起伏量を示す山地（Ⅰa－2）との境界付近には野岳・溜池（野岳堤）や裏見，滝などの遷移点がある。小起伏山地（Ⅰa－2）の末端部は急崖をなして山麓部（Ⅰa′）に移行している。山麓部は比高20～40mの岩石段丘である。萱瀬川渓口部の琴平岳（334m）付近は中起伏量の火山地（Ⅰa－3）で，その西南部は小起伏量山地（Ⅰa－4）で，その山麓部は火山性扇状地の地貌を呈し，末端部は岩石段丘に移行し，さらに玖島・久原の岩石段丘を伴っている。箕島・臼島も火山山麓地（Ⅰa′）に属し，箕島は1973年山体が人工的に削られ東岸は埋立てられて，大村空港が建設されている。

2－1－2　日岳火山地（Ⅰb）

鈴田川以南の日岳火山地は，玄武岩からなり，日岳（258m）は中起伏火山地（Ⅰb－1）で，その周辺は山頂部に溶岩台地を有する小起伏火山地（Ⅰb－2）で，海岸部には祝崎などの岩石段丘を伴っている。溶岩台地と第3紀層の小起伏山地の境界付近に立地する蔦河内には地すべりが発生している。

2－1－3　大村湾南岸火山地（Ⅰc）

琴ノ尾山（451m），普賢岳（320m），鎌倉山（358m），虚空蔵山（360m）は中起伏量を示す火山地（Ⅰc－1）で，その周辺は小起伏量の山地（Ⅰc－2）が海岸に迫り，中起伏山地と小起伏山地の境界に当る標高200mの等高線に沿って小規模な溶岩台地が点在する。また，半島部をなす堂崎・崎辺田などは岩石段丘の地形で，西時津の半島部は，起伏量50～100mの山麓地（Ⅰc′）である。鹿ノ島・竹島も山麓地（Ⅰc′）に属する。

時津湾の西岸に当る堂風岳（286m）から長崎図幅中の鳴鼓岳（383.8m）にかけては中起伏量の火山地（Ⅰc－3）で，その東西に小起伏山地（Ⅰc－4）がつづき，さらに海岸部の山麓地（Ⅰc′）に移行し,岩石段丘を伴っている。堂風岳北方の段丘上には住宅団地が開発されている。鷹島・前ノ島・黒島・二島も山麓地（Ⅰc′）に属する。

2－1－4　西彼杵山地（Ⅰd）

図幅の西部は，西彼杵半島の東半分に当り，古生層の結晶片岩からなる中起伏山地（Ⅰd－

１）が広範囲を占め，標高３００ｍ以上の山頂部では傾斜８～１５°の緩傾斜の準平原をなしている。その周辺の小起伏山地（１ｄ－２）では，２０°内外の急傾斜地を形成している。さらに海岸部で８°～１５°の緩傾斜の山麓地に移行している。

２－２　丘陵（Ⅱ）

２－２－１　峯岳丘陵地（Ⅱａ）

西彼杵半島の東北部にある峯岳（１６５ｍ）は起伏量１００～２００ｍの丘陵地で，上岳（１２７ｍ）および海岸部は起伏量１００ｍ以下の丘陵地で，いづれも玄武岩から成り，傾斜８～１５°をなす地形面が大半を占める。高島・湯島もⅡａに属する。

２－２－２尾戸・戸根丘陵地(Ⅱｂ)形上湾の東岸 .尾戸半島の南部および張岳（１４４ ｍ）および戸根の半島部は起伏量１００～２００ｍの丘陵地をなし，尾戸半島の中央部にみられる東西方向の急崖以北では起伏量１００ｍ以下の丘陵地である。これらの丘陵地も傾斜８～１５°をなす地形面が大部分を占める。鵜瀬島・辰島・寺島もⅡｂに属する。

２－３　低地（Ⅲ）

２－３－１　大村平野（Ⅲａ）

多良岳火山の中央部・黒木盆地から流下する萱瀬川は峡谷状の谷底平野をつくり，坂口より下流で平野を広げ（Ⅲａ－１），郡川の河口に沖田三角州（Ⅲａ－２）を形成している。萱瀬川の前輪廻の河川は峡谷の出口に位置する坂口を扇頂として，半経約４Km，傾斜３°未満の大村扇状地（Ⅲａ－３）をつくっている。

大上戸川・内田川は上流に谷底平野（Ⅲａ－４）、下流に小起模な三角州（Ⅲａ－５）を形成し，その前面には埋立による人工造成地がある。また，箕島には島を人工的削り，その東岸を埋立てた人工造成地があり，ここに空港が建設されている。

２－３－２　鈴田低地（Ⅲｂ）

多良岳火山地と日岳火山地の間を流れる鈴田川は，多良岳西南斜面を流下する支流とほぼ直角に交わり，下流に小規模な三角州を形成して，鈴田低地を構成している。

２－３－３　大村湾南岸低地（Ⅲｃ）

大村湾南岸には堂崎・崎辺田などの岩石段丘があり，伊木力川，長与川，日並川，子々川などが狭小な谷底平野（Ⅲｃ－１，Ⅲｃ－２，Ⅲｃ－３，Ⅲｃ－４）を構成している。伊木力川谷底平野には水田のほか，柑橘園が多く，長与川谷底平野の下流には宅地造成事業・河川改修工事が行われ土地利用の集約化が計られ，日並川下流の海浜は砂質海岸で小規模な人工造成地がある。

2－3－4　西彼杵低地（Ⅲd）

大村湾西岸には，小規模な岩石段丘が散在し，南部では，西海川，戸根川が狭小な谷底平野（Ⅲd－1，Ⅲd－2）をつくり，西海川は潮入川で，戸根川下流には砂礫段丘がある。

形上湾岸にそそぐ手崎川・大江川は短小な谷底平野（Ⅲd－3，Ⅲd－4）をつくり，手崎川下流には砂礫段丘を伴い，大江川の上流は準平原面上を緩流して，巾広い谷底を有し，下流は急流をなして谷幅は狭く，両者の中間に遷移点がある。

大明寺川上流も準平原上を緩流し大江川上流の谷底平野と同型で，大江川の上流との分水界は一見しただけでは明確ではない。最上流部においては，しばしば河川争奪がくり返されたものと推定される。大明寺川下流は，大江川と異なり比較的大きな三角州を形成している。

（長崎大学教育学部　石　井　泰　義）

Ⅱ．表　層　地　質

本図幅地域は，地質，地形的にみると，西側の変成岩類よりなる隆起準平原の西彼杵半島，南側の長崎火山岩類よりなる開析された火山性山地　および東側の多良岳火山の山麓部に大別され，中央部には水深約２０ｍの大村湾がある。

西彼杵半島の大部分は，黒色片岩を主とする変成岩で構成され，片理面はおおむね南北性であり，東方の大村湾に向って傾斜する。海岸線はリアス式海岸をなし，沖積地の発達にとぼしい。長浦付近には小範囲に海岸段丘が発達する。

大村湾の南岸地域は長崎火山岩類の安山岩質凝灰角礫岩と溶岩により構成され，琴ノ尾山（４５１ｍ）がこの地域の最高峰をなす。この地域の西側には，変成岩を被覆する玄武岩が分布し，堂風山（２８６ｍ）などをつくる。

東部の多良岳火山の山麓部は大村湾に向いゆるやかに傾斜し，末端部には主として郡川がつくった大村扇状地が発達する。この扇状地堆積物は８０ｍ内外の厚さをもつ。この地域の南部には，古第三系の諫早層群を被覆する玄武岩の溶岩台地が発達し，日岳（２５８ｍ）がその最高峰をなす。

1。未固結堆積物

1－1　砕礫堆積物（ｓｇ）

代表的な分布地は大村扇状地である。主として郡川が運搬した多良岳の火山岩類が沈積してつくられたもので，安山岩の円礫が砂や粘土を混えて礫層を構成する。富ノ原の水源用井戸の掘穿によれば，この礫層の厚さは７０～８０ｍに達する。

1－2　泥がち堆積物（ｍ）

河口付近の沖積地は，砂礫を含む泥がち堆積物により谷が埋積されたものである。こうした場所のボーリング資料に“転石混り砂質粘土”と記載されたものが多いが，すべて泥がち堆積物に含めた。本図幅内には典型的な沖積粘土層の発達に乏しい。 西彼町 白似田の田面下の厚さ1.3ｍの粘土層には珪石（石英礫）が多量に含まれている。

2．半固結堆積物

2－1　砂礫および粘土（段丘堆積層）（ｔ）

図幅西部の国道２０６号線沿いの琴海町手崎・長浦・戸根原において，堆積段丘が認められる。段丘面の標高は１５～２０ｍであり，堆積物は，黒色片岩礫と石英礫を主とし，基質は粘土化し，きわめて軟弱である。

東部では，萱瀬川沿いに河岸段丘が発達し，安山岩・玄武岩などの円礫と，粘土質基質によりなる段丘堆積物が見られる。

2－2　火山円礫岩（火山泥流）（ｖｆ）

大村市南部に広く分布するもので，分級のきわめて悪い礫層よりなり，礫の大部分は安山岩であるが著しく風化が進み，いわゆる“くさり礫”となっている。その分布は，隣接する「諫早」・「肥前小浜」図幅内におよぶ。原岩は，これまで多良岳火山砕屑岩として一括され，多良岳溶岩に被覆されるものとされているが，風化が深部まで及ぶ状態や基質の軟弱さからいって，後述する安山岩質凝灰角礫岩とは一応区別して地質図上にあらわしている。

3．固結堆積物

3－1　砂岩を主とする部分（ｓｓ）

東部地域の大村市南部に分布する古第三系諫早層群を一括してこれに含める。大部分は毛屋層とよばれる細～中粒砂岩で構成されるが，ひんぱんに泥岩の薄層を挾み層状をなし，また石

炭や炭質頁岩を含む層準もある。内倉においては，毛屋層の上位の侍石層が帯状に分布し，有孔虫化石や海緑石を含むが，「諫早」図幅に入るので地質図中にあらわれない。祝崎の同層準のシルト岩の露出範囲は泥岩（ｍｓ）として表現した。

南部地域では，数カ所に凝灰角礫岩に被覆される砂岩の分布があり，多良見町田平・長与町塩床のものは図示してある。

４．火山性岩石

南部と東部地域には，それぞれ長崎火山岩類と，多良岳火山岩類とが分布し，岩質は安山岩～玄武岩である。また西部地域の北端では，流紋岩質火山角礫岩が分布，玄武岩に被覆されている。

４－１　流紋岩質火山角礫岩（Ｒｂ）

西彼杵町亀浦と時津町日並付近に分布し，多量の流紋岩の角礫を混在し，凝灰質の部分はよく成層する。

４－２　石英安山岩（Ｄａ）

大村市南部の岩松駅付近と，西彼町中山・亀浦付近に小露出がある。

４－３　角閃石安山岩（飯盛溶岩円頂丘型）（Ab_2）

東彼杵町武留路山と琴海町西海の谷門山に代表的に分布し，溶岩円頂丘をつくる岩体である。両個所とも間知石として採石されるが，西海では多くの業者が採石を行い，長崎市周辺の宅地造成用に供給するため，年毎に山容が変わり，頂きの高度が減じつつある。

４－４　複輝石安山岩（大村安山岩）（Ab_3）

灰色の緻密な安山岩で，場所により著しく板状節理が発達する。南部地域では凝灰角礫岩と互層したり，交指状を呈する場合が多い。多良見町，長与町のこれらの火山岩類の分布地域は，古くから著名なみかん畑となり，「伊木力（イキリキ）みかん」として，出荷されている。

４－５　安山岩質凝灰角礫岩および凝灰岩（Ｔｂ）

安山岩質凝灰角礫岩は，南部地域において広く分布し，所により集塊岩地形をつくる。下部には成層する凝灰岩を挾在し，多良見町喜々津では植物化石が含まれる。

東部の大村市内では，佐奈川内川・萱瀬川・大上戸川の中流部の川底に本岩の露出があり，複輝石安山岩の溶岩に被覆される。

４－６　玄武岩（Ｂａ）

本図幅内の諸所に分布し，台地性地形をつくる場合が多い。主な分布地は，大村市鉢巻山・日岳・時津町堂風岳・西彼町峯岳である。本岩はカンラン石，玄武岩で黒色緻密な性質をも

つ。比重は2.74程度で，大村安山岩より0.1～0.2重い。

4－7　玄武岩質岩滓（スコリア）（Sc）

玄武岩の溶岩流の基底部には，しばしば岩滓に富む火山砕屑岩が発達することがある。厚さは薄いが，顕著に発達する所は，地質図中にやや誇張して示してある。

5．変　成　岩

西部地域の西彼杵半島を構成するのは，西彼杵変成岩類として一括する変成岩であり，主として黒色片岩よりなる。部分的に珪質片岩（石英片岩）や緑色片岩を挾在する。また蛇紋岩がこれらの結晶片岩に貫入する所もある。

5－1　黒色片岩を主とする部分（Bs）

石墨・白雲母・石英を主要造岩鉱物とする泥質片岩で，少量のザクロ石・藍晶石なども含むまた曹長石の変斑晶に富んだ点紋帯も存在する。片理の発達は著しく，南北性の走向をもち東傾斜が優勢である。局所的にレンズ～層状の分泌石英脈が発達する。この石英は純度が高く，SiO_2 が99.8～99.9％に達し，珪石として採掘された所もある。

5－2　緑色片岩を主とする部分（Gs）

南部地域の時津町西部に小露出がある。構成鉱物は，緑泥石・緑簾石・陽起石を主とする。

5－3　珪質片岩を主とする部分（Qs）

石墨を欠いた白色の堅硬な結晶片岩で，主成分鉱物と石英と白雲母であるが，しばしば紅簾石を含む部分をともなう。顕著な紅簾片岩はマンガン鉱床に随伴する。

6．深　成　岩

6－1　蛇紋岩（Sp）

結晶片岩に貫入する蛇紋岩の多くはレンズ状を呈し，永続性が少ない。蛇紋岩の周縁部には交代作用によって生じた滑石帯・陽起石帯・緑泥石帯などが知られ，とくに滑石帯は滑石（タルク）鉱床として採掘されることがある。

7．応用地質

7－1　地質災害

西彼杵半島の変成岩地帯における道路の切取面では，しばしば流れ盤的崩壊が起きる。しかし，片理面の方向に注意しておけば大きな災害に発展することは防止できる。

地すべり防止指定地は，大村市南部に２カ所あるのみである。これは古第三紀層の風化生成物が局所的に滑動するために地すべりが起るもので，現象を促進する水の供給は背後地に分布する玄武岩中の亀裂水より行われていることが多い。

7－2　鉱　床

本図幅内の鉱床としては，西部地域で，マンガン・珪石・滑石などが試掘されたり，また東部地域の大村市南部で石炭が掘られたことがある。現在稼行中のものには，大村白土とよばれる窯業原料が雄ガ原鉱山の露天掘で採掘されている。安山岩が熱水変質を受けてハロイサイトになった部分が鉱床となる。本鉱山の採掘実績は次の通りであり，販売先は中国地区２８％，中京と九州地区がそれぞれ２１％づつになっている。

昭和４３年	１４８千トン
〃　４４〃	１４９
〃　４５〃	１４８
〃　４６〃	１０９
〃　４７〃	１１２

7－3　採　石

大村市内の安山岩と玄武岩，時津町子々川と西彼町峯の玄武岩が，建設用骨材として採石されている。また東彼杵町武留路山，琴海町西海の角閃石安山岩は，石垣用間知石として採石されている。

7－4　地 下 水

大村扇状地においては上水道用と畑地灌漑用の深井戸が多数掘られているが，含水層は粘土層にへだてられ２～３層に分れている。

（長崎大学教育学部　鎌　田　泰　彦）

おもな参考文献

鎌田泰彦（１９６８）：長崎県西彼杵・野母半島の珪石鉱床　九州鉱山学会誌　３６巻，１１号，１－１０頁。

松井和典・水野篤行（１９６６）：５万分の１　地質図幅「大村」　地質調査所

松本徰夫（１９７３）：多良岳火山区地質図　国立公園協会

Ⅲ．土　　壌

1。山地の土壌

1－1　土壌の概要

大村湾をへだて，東側は多良岳連峰の西斜面にあたる。安山岩質の母材より成り,主として赤褐系の森林土壌が分布している。古くから人為が加わって人工林率も高く，長崎県としては生産力も高い。北部に移って東彼杵町，飯盛岳周辺からは褐色森林土がみられる。

西側は西彼杵半島のいわゆる内海（うちめ）であり，結晶片岩を母材とする。この基岩は受蝕に弱く,凸部は林木の生長も劣っている。広く黄褐系の土壌が存在するが,半島北部西彼町付近から流紋状に蛇紋岩が現われ，赤褐系土壌の比率が極めて高くなる。

図面中央南部多良見町周辺は安山岩を主体とし赤黄褐系森林土壌が分布する。果樹への転換が早くから行なわれている。

1－2　細　説

1－2－1　乾性褐色森林土壌

西彼杵半島背陵山脈（標高４５０ｍ級）より東形上湾沿岸に至る地域及び東彼杵町の凸部に存在する。

B～C層が7.5ＹＲの色調を呈する。Ａ０層が発達し腐植の混入層は薄い。

1－2－2　乾性褐色森林土壌（黄褐系）

Ｂ・Ｃ層が１０ＹＲの色調を有する乾性の土壌で，山頂・山腹の残積面尾根，急斜地の匍行面等に出現する。西彼杵半島村松を中心とした結晶片岩地帯と安山岩母材の多良見町に分布する。結晶片岩母材のものは侵蝕を受け易く，土層の薄い場合が多い。

1－2－3　乾性褐色森林土壌（赤褐系）

Ｂ・Ｃ層から５ＹＲ～2.5ＹＲの色調を呈する残積性の土壌で,多良岳西斜面の凸部に分布する。Ａ層は薄く，乾性の環境，時に風の影響で生産性は低い。

1－2－4　褐色森林土壌

１－２－１のタイプが陵線・屋根・山頂等に出現するのに対し，山腹谷筋に分布する。風衝から守られる地形では土地生産力も高く経済林地とみなされている。

1－2－5　褐色森林土壌（黄褐系）

結晶片岩母材のものは礫の混入が少なく，物理性（通気・透水）で若干劣るものの，土壌はやわらかで深く,県下では上位クラスの生産力を有する。侵蝕を受け易く，施業には配慮を要する。

安山岩母材のものは風衝のおそれさえなければ良好なる経済林地となっている。

1－2－6　褐色森林土壌（赤褐系）

土層が厚く，理化学性も良好なものが多い。人工植栽も盛んであり県下林業地帯の一つとなっている。

1－3　山地の土壌と土地利用

乾性褐色森林土は黄赤褐系のものを含め，何れも経済林地としての利用価値は乏しい。常緑広葉樹の矮林がかなり残っているので緑化樹ブームに乗ったシイ・ヤマモモ・カシ　等の山掘りが目立っている。特に西彼杵結晶片岩帯は侵蝕を受け易く，又，風衝の影響が強いので，この土壌区分への性急な造林は見合わせ，保護樹帯として残すのが適当であろう。

適潤性の褐色森林土には何れも小面積の湿性褐色森林土を含んでいる。ヒノキ・スギの植栽が行なわれており，林業としての生産性も割合に高い。

（長崎県総合農林試験場　松　尾　俊　彦）

2．丘陵低地の土壌

2－1　土壌の概要

東部は多良山地からつらなる丘陵と郡川・鈴田川を主とする沖積平野から形成されている。丘陵地の土壌は安山岩の風化物を母材とする黄色土壌が多く，畑地および水田として利用されている。玄武岩の風化物を母材とする土壌は赤色～暗赤色土壌で,郡川流域の低地には火山灰を母材とする黒ボク土壌が多く，畑地および水田として利用されている。郡川流域の一部および鈴田川流域，その他小河川の流域には褐色低地土壌，灰色低地土壌が分布し，下層に礫層を有するものもある。又海岸線近くの一部にはグライ土壌が分布し，下層に礫層を有することがある。

中央南部は,琴ノ尾山，普賢岳，鎌倉山，虚空蔵山等の５００米以下の低山と,これらの山に源を発する小河川による沖積地から形成されている。低山，丘陵地の地質は安山岩で,土壌は黄色土壌が多く，一部に赤色土壌が分布している。急傾斜地が多く，県内ミカンの主産地である。低地はグライ土壌および灰色土壌が分布している。

西部は西彼杵半島の尾根より大村湾をのぞむ丘陵地と，これらに源を発する戸根川等の小河川による低地から形成されている。

丘陵地の土壌は，結晶片岩の風化物を母材とする黄色土壌が多く，一部は赤色土壌でミカン園

および普通畑として利用されている。

西彼町の一部には玄武岩の風化物を母材とする赤色土壌が分布し，土性は微粒質である。低地の土壌はグライ土壌が多く，下層に礫層が出現するものもある。

グライ土壌の上部には灰色土壌が分布している。

2－2 土壌細説

2－2－1 黒ボク土壌

表層に黒褐色～黒色の腐植層を有する土壌で腐植層の厚さは５０㎝内外である。表土の土性はＣであるが，下層土はＬ～ＣＬである。大村市の沖積地に分布し，主としてやさい畑として利用されている。

2－2－2 厚層黒ボク土壌

暗褐色～黒褐色の腐植層を有する土壌で，腐植層の厚さは１ｍ内外である。表土の土性はＣＬ，下層はＬ－ＣＬである。

大村市の沖積地に分布し，主としてやさい畑として利用されている。

2－2－3 多湿黒ボク土壌

黒褐色の腐植層を有する土壌で腐植層の厚さは３０㎝内外である。作土下に鉄の斑紋を含み，４７㎝以下は円礫層となっている。大村市の沖積地に分布し，水田として利用されている。

2－2－4 淡色黒ボク土壌

黒色の腐植層は有しないが火山灰混入の沖積土壌である。表土の土性はＣＬ，下層土はＬｉＣである。

大村市の沖積地に分布し，主としてやさい畑として利用されている。

2－2－5 赤色土壌

下層土の土色が５ＹＲ４／４ より赤い土壌である。母材は玄武岩，安山岩の風化物および結晶片岩の風化物である。

表土の土性はＣＬ－Ｃ，下層土はＣで，大村市・長与町・西彼町・長崎市　三重・琴海町に分布し，みかん園および普通畑として利用されている。

2－2－6 黄色土壌

下層土の土色が５ＹＲより黄色味がつよい土壌である。

丘陵斜面に分布する残積土壌で，安山岩・結晶片岩系の土壌が多く，一部玄武岩系の土壌を含む。

表土の土性はＣＬ－Ｃ，下層土はＣである。分布は最も広く，全市町村に分布している。大部

分はみかん園，やさい畑および普通畑として利用されているが，一部は水田として利用されている。

2－2－7　暗赤色土壌

赤色土に似ているが，それよりも明度・彩度ともに低く，下層土の土色は色相が5YRで彩度・明度ともに4またはそれ以下である。

表土の土性はCL～C，下層土はCである。玄武岩系の残積土壌で大村市松原および三浦半島に分布し，畑地および水田として利用されている。

2－2－8　褐色低地土壌

下層土の土色が黄褐色の土層からなる低地土壌である。鉄の斑紋を含み，マンガン結核にとみ土性はCである。

大村市郡川の流域に分布し，水田として利用されている。

2－2－9　粗粒褐色低地土壌

下層土の土色が黄褐色の低地土壌で30cm内外より円礫層を有する。表土の土性はCL，下層土はCで，鉄・マンガンの斑紋・結核を含む。大村市郡川・鈴田川等の大小河川の流域に分布し，水田として利用されている。

2－2－10　細粒灰色低地土壌

下層土の土色が灰色～灰褐色の低地土壌で土性はCLである。鉄の斑紋にとみマンガン・結核を含む。

大村市郡川の川口付近に分布し，水田として利用されている。

2－2－11　灰色低地土壌

下層土の土色が灰色～灰褐色の低地土壌で土性はLである。鉄の斑紋を含む。大村市・時津町・琴海町の大小河川の流域に分布し，水田として利用されている。

2－2－12　粗粒灰色低地土壌

下層土の土色が灰色～灰褐色の低地土壌で，30～60cm以下に円礫層が出現する。

土性はL～CLで鉄の斑紋を含む。多良見町・時津町・琴海町の小河川の流域に分布し，水田として利用されている。

2－2－13　細粒グライ土壌

全層グライおよび作土直下よりグライ層になっているものが多く，土性はCL～Cで，鉄の斑紋を含む。大村市・長与町・琴海町・西彼町の大小河川の流域および台地に分布し，水田として利用されている。

2－2－14　グライ土壌

作土直下よりグライ層となっているものが多く，40cm内外より礫層となっている。表土の土性はL～CL，下層土はSL～Cである。大村市・時津町・琴海町・西彼町の小河川の流域に分布し，水田として利用されている。

（長崎県総合農林試験場　　小野末太）

IV. 開 発 関 連 図

1. 防 災 図

(1) 地すべり防止区域

地域名		所在地		地域面積(ha)	家屋数(戸)	告示年月日	地すべり地の概況	所管
区域名	関係河川名	郡市	町村				発生年月日	
川下		北高来	飯盛	13.13	23	36. 5.17	28年	建設
久保	江ノ浦川	〃	〃	17.01	22	37. 2.14	〃	農林
万詰	〃	〃	〃	10.60	20	43. 9.19	〃	林野

資料：県河川砂防課，耕地課，林務課調

(2) 砂防指定地

番号	河川名		所在地	指定関係事項		着工	竣工
	幹川名	渓流名		告示年月日	面積(ha)		
1	郡川	本川	大村市萱瀬郷	31. 3. 3	3.00	30年	32年
2	大上戸川	大上戸川	〃 荒平町	32. 11. 28	6.6	32	32
3	郡川	佐奈河内川	〃 重井田郷	43. 2. 16	9.40	43	44
4	大明寺川	大明寺川	西彼杵郡西彼町	47. 2. 14	7.32		
5	郡川	菅無田川	大村市宮代郷	〃	6.55	45	46
6	日泊川	日泊川	〃 日泊郷	〃	3.19	45	46
7	大堂川	大堂川	西彼杵郡長与町	47. 3. 29	6.4	47	49
8	郡川	佐奈河内川	大村 重井田郷	〃	9.40	45	46

資料：県河川砂防課調

(3) 急傾斜地崩壊危険区域

番号	指定区域名	所在地	告示年月日	面積	人家
1	小千	西彼町	46. 2. 25	0.31 ha	12 戸
2	下丘	〃	〃	0.65	12

資料：県河川砂防課調

2. 開発規制図

(1) 県立公園

公園名	指定年月日	関係市町村	公園面積	利用型式	公園の特色
多良岳県立自然公園	S26. 4. 6	5 市町計	6,542.5ha	登山，ハイキング，ピクニック，キャンピング	山岳景観地域
		諫早市	1,475.0		多良火山系
		• 大村市	3,250.0		シイ二次林
		• 東彼杵町	200.0		ススキ草原
		小長井町	162.5		渓谷水系
		高来町	1,505.0		シャクナゲ群落
大村湾県立自然公園	S41. 1.11	9 市町計	2,235.0	ピクニック，フイッシング，海水浴，宿泊保養	海洋景観地域
		• 大村市	139.0		リアス式海岸，海峡，多島群，内陸沿岸
		• 東彼杵町	130.0		
		川棚町	311.0		
		佐世保市	104.0		
		• 多良見町	215.0		
		• 長与町	150.0		
		• 時津町	295.0		
		• 琴海町	531.0		
		• 西彼町	360.0		

資料：県立自然公園調書（県自然保護課）

（注）1. 面積は図上測定である。　　2. • 印は本図葉内関係市町村

(2) 保 安 林

単位：ha

市町村名	総数		水源かん養林	土砂流出防備林	土砂崩壊防備林	防風林	魚つき林	その他
	箇所数	面積						
長崎市	207	988.57	522.74	455.81	—	0.40	9.62	—
諫早市	19	1,254.31	1,022.30	232.01	—	—	—	—
大村市	19	311.56	165.32	134.45	11.07	—	0.72	—
多良見町	6	21.15	—	20.59	—	—	0.56	—
長与町	8	10.03	—	0.83	—	—	9.20	—
時津町	4	4.92	—	—	—	0.50	0.12	4.30
琴海町	6	57.34	—	56.98	—	—	0.36	—
西彼町	4	5.60	—	—	—	—	5.60	—
東彼杵町	3	25.51	—	16.64	1.92	—	—	6.95
計	276	2,678.98	1,710.36	917.31	12.99	0.90	26.18	11.25

資料：長崎県の林業（県林務課）

(3) 風 致 地 区

名称	面積	市町村名
忠霊塔風致地区	13.5 ha	大村市
山田の滝風致地区	66.0	大村市

資料：県都市計画課調

(4) 鳥獣保護区

名称	区域	指定期間	名称	区域	指定期間
県設亀岳大串鳥獣保護区	ha 890	S46.11. 1 ～S51.10.31	県設野岳湖鳥獣保護区	ha 32	S43. 5. 4 ～S53. 5. 3
県設大村公園鳥獣保護区	16	S41. 3.31 ～S51. 3.30			

資料：長崎県鳥獣保護区等概要図（昭和48年度）

(5) 都市計画区域

単位：ha

区域名	区域内市町村名	範囲	面積	市街化区域	市街化調整区域
長崎	• 長崎市	行政区域の全域	20,761	4,723	16,038
	• 諫早市	〃 の一部	8,210	1,385	6,825
	• 時津町	〃 の全域	2,072	439	1,633
	• 長与町	〃 の一部	1,336	342	994
	• 多良見町	〃 の一部	1,426	252	1,174
	香焼町	〃 の全域	434	434	0
	計		34,239	7,574	26,665
大村	• 大村市	行政区域の一部	3,215	—	—
伊王島	伊王島町	〃 の全域	196	—	—
千々石	千々石町	〃 の一部	3,259	—	—
小浜	小浜町	〃 の一部	1,745	—	—

資料：県都市計画課調

（注） •印は本図葉内関係市町村

1974年3月　印刷発行

大長崎都市圏総合開発地域
土地分類基本調査

大村

編集発行　長崎県企画部企画課
長崎市江戸町2－13
印　　刷　㈱富士マイクロサービスセンター
熊本市水前寺6丁目46－1